

医療と教育

医療新時代に向けた基幹病院の動向

ハード・ソフトの充実を図る基幹病院

新病棟完成や最新機器導入も

地上6階地下1階建て新病棟建設中

県内初のP.I.C.U.を新設

熊本赤十字病院

熊本赤十字病院(熊本市長嶺南2丁目)は、敷地内にこども医療センターおよび新救命救急センターなどが入る新病棟を建設している。10月に着工し、2012年4月に運用を開始する予定。

小児科病棟にP.I.C.U.(小児集中治療室)を新設するため建築しているもの。また、狭隘(きょうあい)化している現在の救命救急センターも新棟に移す。新棟は健康管理センター北側の現駐車場用地に建設、鉄骨鉄筋コンクリート造り地上6階地下1階建て、延べ床面積は約1万3000㎡。1階は救命救急センター、2、3階は小児科病棟、4、5階は約500人収容の講堂と研修室などの研修施設、6階は機械室などが入る。小児科病棟は現在と同じ46床で、うち6床が新設のP.I.C.U. P.I.C.U.の開設に伴い看護師を増員する見通し。

また、新棟に救命救急センターを移転後、現救命救急センターの跡を小児科外来として改修する。改修面積は約950㎡。これらの建築主体工事および電気・機械設備工事の総費用はおよそ36億4100万円。

同病院では、P.I.C.U.の開設は県内初。これまで一般のICUで救命活動を行ってきたが、子ども特有の症状に対応できるP.I.C.U.の開設でより救命率を上げられると期待している」と話している。

地上12階地下1階建て東病棟が完成
免震装置備え、災害拠点病院としての機能を強化

熊本赤十字病院

熊本赤十字病院(熊本市長嶺南2丁目)が総工費約71億円をかけ、07年から同大学本荘キャンパス北地区の臨床講義棟跡地に建設していた「東病棟」の工事が完了、利用を開始している。

東病棟の完成は、02年に完成した西病棟と06年に完成した中央診療棟に続く同病院の再開発の一環となる。規模は鉄骨鉄筋コンクリート造り地上12階地下1階



熊本市本荘1丁目の熊本大学医学部付属病院

建て、延べ床面積は約2万㎡。免震装置を備え、災害拠点病院としての機能を強化した。

東病棟の完成に合わせ、既設の西病棟診療科病床の配置を見直し、西・東病棟の関連診療科が連携した「フロアセンター化」を図った。東病棟を西病棟とエレベーターホールで接続。関連の深い部門を同じ階に配置することで水平方向の連絡がスムーズになり、内科・外科などの診療科の垣根を越えた患者別の横断的な診療体制が整った。

フロア構成は地下1階がヘッド管理センターなど、1階が薬剤部と管理サービス部門、2階が整形外科、3階が消化器内科、4階は消化器外科、5階はCCU(冠動脈疾患管理室)、6階はHCU(準集中治療室)と心臓血管外科、7階は婦人科と乳腺内分分泌外科、8階は小児外科、移植外科と小児科、発達小児科、共通(放射線治療科)、緩和ケア病床、9階は眼科と糖尿病センター、10階は歯科口腔外科と泌尿器科、11階は呼吸器内科と呼吸器外科、12階は院内学級と多目的ホール、ライブラリーインフォメーション。病床数は433床。そのうち個室を84室に増やした。

同病院では、「新病棟の完成と共にさらに地域に貢献していきたい」と話している。

フルオープンには12年3月

救命救急センターは従来の約20倍に拡張

国立病院機構熊本医療センター

国立病院機構熊本医療センター(熊本市二の丸)は、7階建ての新病院の工事を完了した。旧病院の取り壊しと駐車場整備を含むフルオープンは12年3月末を予定している。

新病院は鉄骨鉄筋コンクリート(一部鉄筋コンクリート)造り7階建て、建築面積は約9500㎡、延べ床面積は約4万2000㎡で、従来の約2倍に拡張した。建物の高さは35・6m。熊本城の天守閣の石垣より高くなつてはいけなため敷地内の最も低い場所に建設した。1階は歩行者用の玄関。外来部門のある4階を主玄関としている。



熊本市二の丸の国立病院機構熊本医療センター

理室、機械室、2階が調剤室、中央材料室、地域医療研修センター。同センターのホールは3200人収容できる。3階は医局と管理部門、臨床研究部、検査室、4階は外来部門で、各診療科の外来診察室のほか救命救急センター外来、CTやMRIなどの画像診断センターや化学療法センターも設けた。5階は救命救急センターと手術センター、透視センター、病棟、6、7階は病棟。病床数は現在と同じ550床だが個室が151室、うち有料個室を18室から107室に増やした。また、医療機器も充実させ128列マルチスライスCTを導入し2台から3台に増やしたほか、放射線治療機器「リニアック」「ラルストロン」を最新のものに更新。

同センターでは、「新病院の完成で救命救急センターを含めた診療機能をさらに拡充できる。またCCU(循環器集中治

県内の基幹病院で新病棟の建設が相次いでいる。新たに小児集中治療室や循環器集中治療室などが設置され、医療体制の整備が進む。ハードとソフトの両面から充実を図る県内基幹病院の動きを取材した。

320列ADCTを県内初導入
11月に3000症例に到達
済生会熊本病院

済生会熊本病院(熊本市近見5丁目)はこのほど、320列AD(エリアディテクタ)CTを県内で初めて導入した。11月8日には3000症例に達した。320列CTで1日平均20件の撮影を行っている。CTが1台増えたことから、CT全体の検査件数が昨年と比較しておよそ400件増え、導入前は20日以上待ち日数(造影検査の場合)もあつた患者の待ち時間が、ほぼ無くなり、長くて2、3日以内には撮影できる体制が整ったという。また、他医療機関からの320列CT撮影目的の依頼件数は、全体のおよそ17%で、県外からは宮崎県の医療機関からの依頼が多く、福岡県や鹿児島県からの依頼もあるという。



県内初導入となる320列ADCT

熊本地域における医療の質向上を目指し、地域全体で共存する機器として利用していただき、地域医療の発展に寄与したい」と話している。

親子のコミュニケーション講座

子どもを生み、自立した大人への育成とは(41回)
「一人の人間を生み、養い、社会の中で自立した一人になるまで育てる。これが親の役割です。親は子どもの成長に大きな責任があります。そのために必要なものがコミュニケーション能力です。ここでは親と子のコミュニケーションのとり方についてアドバイスします。」

「家族の絆」



親業訓練インストラクター 津川 育子

自他共に認めるテレビ好きの私は、毎期のドラマを楽しみにしています。今期のどのドラマも、終盤に差し掛かり、様々な展開が繰り広げられています。たくさんさんのドラマの中でも、私自身、テレビの前で「わかる!」「頑張れ!」なんて共感しながら楽しんでいるドラマがあります。
『フリーター家を買っ』
有川浩の同名書籍をドラマ化した作品です。親と子どもとの在り方、家族の在り方、仕事への取り組み方...。多くの共感と共に、ハッと気付かされることも多々あります。なんとも歯がゆいけれど、それでも確かにそこに存在する「絆」を感じる事ができる物語です。
ストーリーは就職先を三カ月で辞めた息子へ、頭ごなしに否定的な言葉ばかりをぶつけ、献身的に家庭を支えようとしてくれていた妻へ、責める言葉ばかりを投げ付けてしまふ父。
人間関係に行き詰れば、すぐにバイトを辞めてしまふ息子との溝は深まる一方という流れです。「素直になつて、自分の気持ちを言えよ!」に、「今はじっくり聞いてあげたら、どんなに救われるだろう」。親業インストラクターとして、突っ込みながら見るときもありませんが、もちろんそれができないのが現実。
私も人には、偉そうに言っているけども、子どもたちとは、何かとお互い反発したり言い争ったりも多々あります。
物語ですが、進むにつれ、そんな父子の関係に変化が起きます。なかなか就職先が決まらない息子が、初めて素直に「アドバイスをして欲しい」と父を頼った時、父は文句を言いつつも、父は父の疑問に答え、一次審査通過の手紙が届いた時、息子に見えないように小さくガッツポーズをしました。
一時は、口汚く互いを罵りあっていた二人が、少しずつ「親子」としての関係を戻していき、時には、互いの想いを理解できず、にぶつかりあい、否定し合い、すれ違う。それでも、共に困難を乗り越える力を持つ。
「コミュニケーションをもっとも大事にしたいのが家族であつたほうが」と分かつているのに、近いから故か不器用になつてしまふ。
年末年始、家族との関わりを持つ時間も多くなると思っています。腹を割って会話をし、相手の話を真剣に聞く。ぜひ、こんな時間にもしたいですね。
『絆』は、目には見えませんが、確かにある「絆」、ちよつと楽しめられればと思います。